

■主役は俺だー2025年秋⑤

□木村 拓海（きむら・たくみ） 東京農業大4年 WR／DB／P

25年ぶりの1部勝利と1部残留。昨季の東京農業大ファイティングラディッシュは歴史的なシーズンとなった。その原動力がパス攻撃。QB関叶翔とWR浅川夏暉、TE大嶽潤太郎の2年生トリオ（当時）と、兄貴分のWR木村拓海（当時3年）が躍動した。パスで681ヤードは、北海学園大、釧路公立大に次ぐ堂々のリーグ3位。帯広畜産大戦の勝利にも伏線があった。前節の北海学園大戦で大敗したが、木村がDBと競り合いながら40ヤードTDパスを捕球して意地を見せた。これで関が自信を深め、翌週の帯広畜産大戦で大嶽と浅川へTD弾を放ち、29－0で快勝した。「1部で戦える自信がついた」と木村が振り返る会心のキャッチは、後輩たちへの熱いメッセージになった。

山形・上山明新館高ではサッカー部のセンターバック。175センチ、68キロながら抜群のジャンプ力で「ヘディングの競り合いが得意だった」と言う。実家は果樹と米の農家。「一次産業の本場で農業経営を学びたい」と網走の東京農業大を選んだ。アメフト部では「華やかさと責任のあるポジションに魅力を感じた」とWRを志望した。昨年の歴史的勝利にはもう一つ、木村のお膳立てがあった。2023年秋の1、2部入れ替え戦。北星学園大を42－0で下し、1シーズンでの1部復帰を決めたが、後半の木村の3連続TDキャッチで勝利を決定づけた。試合後に「来年は浅川と切磋琢磨する」と口にし、2年ぶりの1部の舞台でしっかりと実現してみせた。



最終学年を迎えた今季。今度は勝ち星の上積みが目標だ。そのために「捕球後のランを磨きたい」と決意する。「スキルポジションは強みがある。あとは

ラインの力を引き出すようなプレーをしたい」と言う。24日の秋季リーグ開幕戦は同じ道東のチームとして刺激を受ける釧路公立大が相手。「釧路は選手一人ひとりが何をすべきかを知っている。東農大も全員が目的意識を持って同じ方向を向かないといけない」と、チーム力向上もテーマに挙げながら、「キャッチ率100%。2TD以上取って波に乗りたい」と気合を込めた。
(塚田博)

〈プロフィール〉

2004年2月6日、山形・上山生まれ。生物産業学部自然資源経営学科4年。練習ではヘルメットにアイシールドを付け、「これで集中できる」とお気に入りだ。